

(六夕刊)

啓蒙記（其の六）

福田將夫に『そりかへつて』見せて貰ふこと

島田忠夫

ところが滑稽なことに、解せられようと逃げられ、福田は、自から斯う記して居る。曰く、彼は昔からあることと曰つてゐる。弱音を吐いてゐる。否、泣言を述べる。

（記）これはまことに、おもしろい泣言である。どうか、予は童謡のことで争論しない。附記で泣言を云ふ位なら本論であやまり給へ。

（記）一昨年の春、川路柳虹氏が、『そりかへつて』が茶飯に見受けられる所である。しかし笑ふ

（記）これは生物学的骨が軟質なのか、生物学的骨が硬質なのか、生物学的骨が強度のか

（記）これは生物学的骨が強度のか、生物学的骨が柔軟性のか、生物学的骨が強度のか

（記）これは生物学的骨が柔軟性のか、生物学的骨が強度のか、生物学的骨が柔軟性のか

定價一ヶ月二銭（都税）
廣告料一月六十銭（都税）
發行所 城城新聞社
三五六四

ある日なれど失物は注意△
二黒花も實ある日文學上に關する事尤も吉三碧

何事も手堅く守りて慣れぬ

面の色の動きをみつめま

ひないのぢや

津園は、くりかへしさう

云つて、ぢいつと源水の

と仰せられるは、旅に出

よとのお言葉にござります

さか

「さうちや、旅に出てもら

頼みにくいのぢやが、され

ばといつて、捨てゝも置か

ね、誰か、若い人にも頼

めばよいのぢやが、不幸に向

て、先生を存じ上げて居

ものは、見當らぬのぢや

が、引きうけては下さらぬ

幸ひ、貴公なれば、先生に

も面識のらるゝ、寒さに向

て居りましたとき。

「は？」

たが、源水が、また覺悟

云ひ難いさうに、幾度か

云ひ難いとは、迷つて居

ましたが、例の菅茶山

か定まりかねてもじ／＼し

かう、聲をかけたのは少

か」

「先生」

かう、聲をかけたのは少

年彦九郎でした。

「は？」

たが、源水が、また覺悟

云ひ難いさうに、幾度か

云ひ難いとは、迷つて居

ましたが、例の菅茶山

か定まりかねてもじ／＼し

かう、聲をかけたのは少

年彦九郎でした。

「は？」

たが、源水が、また覺悟

云ひ難いさうに、幾度か

云ひ難いとは、迷つて居

